

老舗磯釣りクラブを訪ねて

ポイント磯クラブ編

来年には創立 50 周年を迎えるポイント磯クラブでは年間 10 号位の割合で「ポイント磯会報」を発行しています。現在 281 号ですのでおおよそ 28 年間続いたこととなります。この会報によって月 1 回の釣行の様子や情報を会員や釣友に届けています。今回は、高尾会長のご好意によりポイント磯会報から春の釣行の一部をご紹介します。

第 3 回例会 2015 年 4 月 12 日(日)

今回のメンバーは、藤代、武沢、根本、兼平と高尾、そして釣友の野島氏、植竹氏(両氏とも和竿同好会)の計 7 名だ。藤代だけが地磯狙いで他は渡船の予定だ。昨年より定期船橋丸の時間帯が変わったため、御蔵に渡船しての釣りは正味 4 時間(7 時から 11 時まで)である。

12 日 5 時三宅島の錆が浜に入港。下船した時にも感じたが、さほど風は吹いてない。気のせいか海はベツリ、この分だと本当に御蔵に行けるかも…ウヒヒヒー。宿に着くと光明丸の船長がニコニコしながら出迎えてくれた。「船長、今日はどうかね、行けるかね？」すると船長は眉の間にシワを寄せて「風はまあまあだけど、ウネリが大きいようだから…」と煮え切らない返事。高尾はすかさず「そういえば、明け方本船もかなり揺れたようだしねー」と続け、船長のはっきりした返事を聞くまでもなく「よーし、やめておこうか！今日は全員地磯にしよう！」

地磯ママに植竹と高尾が入ることにした。岩の間をエッチラ・オッチラ 20 分程歩いて釣り座にたどり着く。後で聞いた話だが、ママには前日の雨の中、東京磯釣り倶楽部組が入ったらしく全く餌取りもなく早々に引き上げたそう。早く言ってよ！

浅いところに狙いを絞った武沢は坪田港にいる。藤代は高尾と植竹を送った後、錆が浜港に釣座を構えた。和田には上物狙いの 2 人根本と兼平が入り、必死にコマセているようだ。“やりました!!”武沢から早々と連絡が入った。2kg ほどの本石だそう。まだ時間が早いので、アタリが続くようなら移動も考えるから又連絡してくれるように頼んで電話を切った。

野島氏は今崎の潮の鼻とタイサブローの間の磯で竿を出している。北東に変わった風をまともに受けながら寒くて仕方無いらしいが、既にキロクラスのワサを釣り上げている。井ヶ谷港にも和竿同好会の



武沢氏、坪田港にて今年第 1 号のイシダイ。おみごと。

釣友が竿を出しているが、ママ同様、潮もなければ餌取りも無いようだ。

鯖が浜の藤代から電話が入った。隣にやってきた磯凧会の櫻井氏がマガニ餌で1mほどのネコザメ?を2匹かけ、その後、ガンガセに変えたところ、今度は極太ナマダをかけたと笑いながら報告してきた。和田の2人は待望のメジナを釣り上げたらしい。ママでは、正面沖に向けて移動をを試みた高尾だが、時すでに遅し、刻々と納竿時間が迫り終了。



兼平氏と根本氏。1キロクラスの入食い！

<成績> イシダイ: 武沢 53.0cm、2,560g
メジナ: 根本 42.5cm、1,000g、兼平 41.8cm、1,080g
他魚: 根本 1,900g、48.0cm(イスズミ)

第4回例会 2015年5月17日(日)

参加したのは新屋長老、朝倉、藤代、金城、山本、高尾とゲストの野島氏(荒波会)それに当日ぎりぎりにやってきた椎名の8名となった。この日の橘丸は井ヶ谷港に入港、東北東の風が吹き少々波気もあったようだが、この分なら御蔵へ行けそうだ。渡船組の4人は宿を出て途中でウニ殻、オキアミを積み坪田港に到着。海は思っていたよりも荒れていて、かなりの波が押し寄せている。船長の「やめておこうか！」の一言で地磯に向かうことになる。上物狙いの朝倉、金城と底物の高尾と野島氏の4人揃ってツルネから和田に入ることにした。

野島氏と高尾は比較的平坦な足場の良いところに釣座を構えた。風こそうまく逃げられた



野島氏(荒波会)やったぜ！

ようだが、波の勢いは強く、目の前のウノクソの先端の高いところまで打ち上げている。我々のいるワンドの奥の方まで押し寄せてくる。隣の野島氏のカニ餌の1投目に良いアタリ…そして止まった。高尾はウノクソの先端に向けて40m程の所にヤドカリ餌で投入。沖からウネリに押されて仕掛けが手前に戻される。野島氏の2投目にまたまたアタリ、そして一気に穂先が入った。竿敏が晩年に製作した細身の三本継が綺麗に弧を描いている。高尾はすぐに竿を上げ足場の良い取り込み易いところへ移動した。イシダイだ！きれいな縞模様の丸丸と太ったやつだ。持参した棒ばかりで計量すると2.8kgあり、卵をはたく前のポッチャリしたやつだった。時間は7時丁度を指していた。続いて隣の高尾の竿にもきた。今度は2kgほどのやはり縞模様の鮮やかなメスのイシダイで、これはどうやら卵をはたいたらしく痩せていた。



高尾会長。綺麗な縞模様のイシダイ、うれしいね！

他の磯はどうなっているのか？高尾は気になり携帯を入れてみる。新屋長老は既にヘロヘロである。藤代はこの日は上物狙い、持参した数々の餌を取り換え引っ換えやっているが何も釣れない。オモリ1個しか無かった椎名は高尾が進呈した冷凍のマガニ、ヤドカリ、ウニを代わる代わるやってるがアタリ無し。息も絶え絶えの長老だが、やっと竿を出したようだが、水温15℃、北東も強く吹いていて寒くてやってられない。そこに入った高尾からの電話。渡りに舟というか勿怪の幸いというか、そんなことはどうでも良いが、これ幸いと場所を変えることにした。藤代、椎名、長老の3人の移動した先は鯖が浜港であった。

長老がイシダイを釣ったぞー！鯖が浜には幸い先行者はいなかった。移動しての1投目10時15分である。10時半頃、堤防の左先端30m位のところに投入した長老の竿が一気に入った。ビックリするやらアリヤリヤンリヤン。すぐに竿に飛びつき大きく合わせる。がちりかかったようだ。ここは堤防、根から離せばもうとれたも同然。口をとがらせリールを巻くその手にも余裕がある。足元まで寄って来たのはイシダイの綺麗



長老こと新屋氏。9年振りのイシダイに小鼻が…。バッチリきまった写真があったのに、なぜか長老だけこんなことに！

な縞模様の9年振りのイシダイだ。近くにいた香港から来たらしい釣り人が代わる代わるその魚を持たせてもらって記念撮影。長老の小鼻は開きっぱなし、下がったまゆ毛をさらに下げ、顔面はグニャグニャでありましたとさ。めでたし、めでたし。



長老から9年ぶりにイシダイの釣り方を教えてもらって大いに盛り上がる(新屋氏は右奥)

<成績> イシダイ:高尾 47.5cm,2,280g、新屋 46.5cm,1,900g

